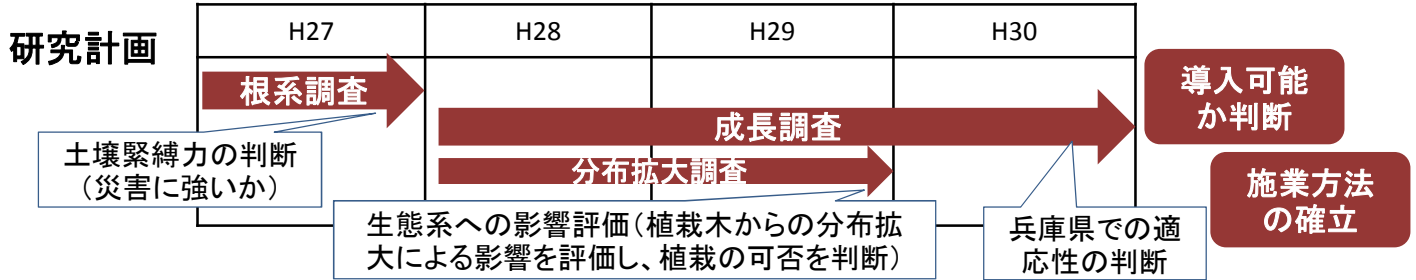


早生樹種「センダン」の植栽可能性の検討

森林林業技術センター 高山 勉

【目的】 資源循環型林業実現のため、スギ・ヒノキ伐採跡に植栽する再造林樹種の検討が求められている。そこで、早生樹種の一つで、県内に分布している「センダン」について、人工植栽可能性の評価を行う。



1 成長調査 宍粟市内の植栽地において成長量等を調査 (H28. 3~4に植栽)

植栽箇所	標高	年平均気温	傾斜	平均樹高成長量	最大樹高成長量	平均開空度
波賀町上野	680m	11.1℃	8°	3cm	78cm	63%
山崎町上比地	385m	12.7℃	35°	29cm	109cm	44%
対照: 山崎町梯 (耕作放棄地)	190m	13.8℃	0°	93cm	187cm	64%



山崎町上比地 樹高160cm

成長量は、山崎町梯 > 山崎町上比地 > 波賀町上野の順

① 標高

標高が高く、低気温である波賀町上野で成長が遅い
遅霜で先端が枯れる場合がある



② 光環境 (開空度)

山崎町梯と山崎町上比地で、開空度が成長量に影響していた (図1)
魚眼レンズによる開空度の撮影 (写真は開空度45%)

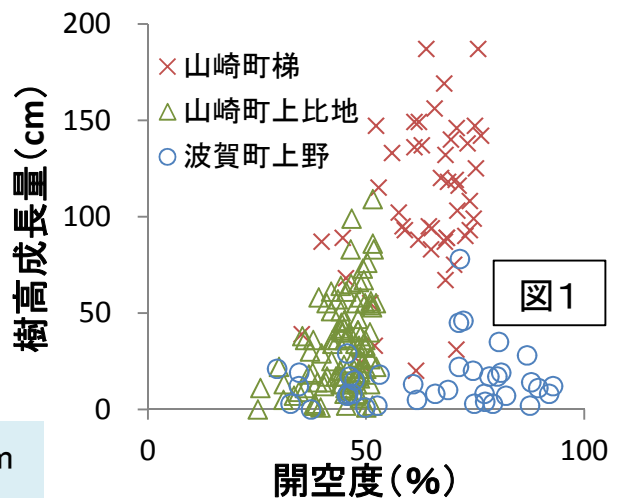


図1

標高が低く、開空度が50%以上あれば、1年で1m (概ねスギの2倍) 以上もの成長が期待できる

2 根系調査

引き倒し抵抗力はヒノキと同等 (図2) (調査地: 佐用町)

災害に強い森づくりに使う樹種としては適当でないが、一般的な造林には問題はない

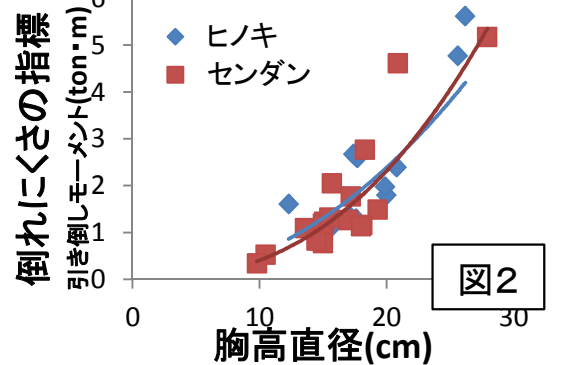
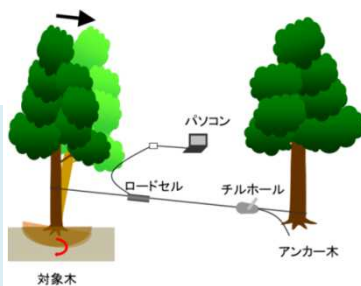


図2

【成果の活用予定】 現時点で、低標高かつ緩傾斜地での植栽可能性が示唆されている。今後の成長や分布拡大調査等も勘案し、人工造林樹種として導入可能か判断する。また、施業方法 (植栽密度、保育の時期等) の確立へ向けた知見を収集する。